

ハーブティ

2007.9
Vol.18

ひと ひと
～女と男をかんがえる～

ハーブティ:「ハーブ (herb)」は香草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使い、これが心と体にもよいバランスのとれた刺激を与えることから、女と男がバランスのとれた関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークが広がれば…という願いがこめられています。



こんな働きかたもある

”好き”を仕事に、自分らしい生き方を選択した2人に出会いました!!

こんな働きかたもある！

”好き”を仕事に、自分らしい生き方を選択した2人に会いまして！！

今回は、一度会社勤務をされたものの、ライフステージの変化などにより、仕事を一転！“自分の好きなこと”と“新しい仕事”をうまくマッチングさせたお二人から、お話を伺いました。

1日の生活の様子をはじめ、職住近接のメリットや家族とのふれあい、協力など仕事以外の部分についてもフォーカスを当てています。

こんどう みお
近藤美緒さん 小久喜在住 ネットショップ経営 夫・長女（5歳）・長男（1歳）



製薬会社で5年間営業職勤務

インターネットショップが流行り出したころ

出産を機会に退職
旅行したバリ島でアタ製品と出会う

27歳の時、夫のアイデアで
ネットショップを設立

● 今の仕事のきっかけはバリ島旅行

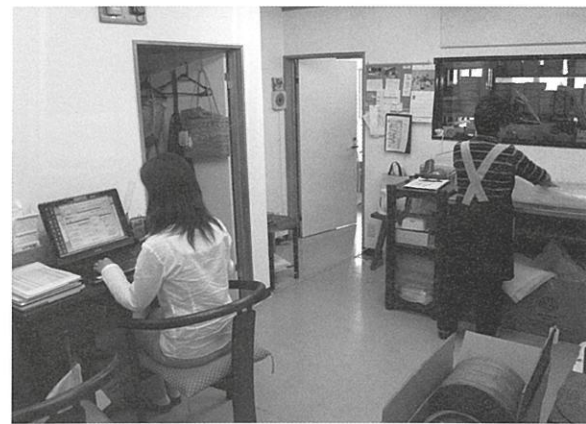
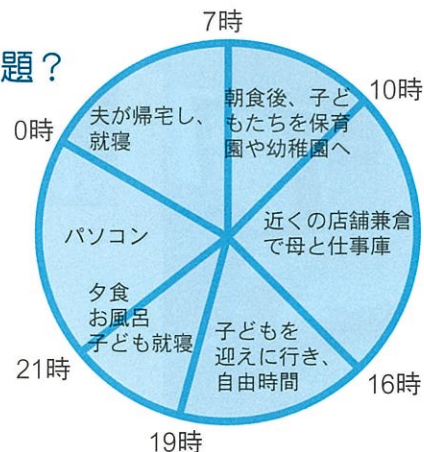
出産を機に会社をやめたが、社会との関わりを絶ちたくなかった。夫も、働く姿をみせるのは子どもにとっても良いことだと支援してくれた。そのころ、旅行したバリ島で、アタ（ツル性の植物）製品と出会った。その素晴らしさから、日本で質のよいものを提供したいと思い、この製品に特化したネットショップを開業することにした。失敗したらやめれば良いという気楽な気持ちから始めた。

● お客様の喜びと満足が自分の充実感

小さいころから、人に喜んでもらうことが好き。営業職時代もお客様に喜んでもらえることはもちろん嬉しかった。今の仕事は、自分が惚れ込んだ商品を提供しており、そこには、お客様との価値観や気持ちの共有、共感がある。誰かを喜ばせたい、満足させたい。その手段が、現在の商品である。そうした販売を通して、喜びを感じている。

● 時間管理は永遠の課題？

区切りをつける必要性は、今でも感じている。コツがあれば、私自身が教えてほしいくらい！



● まずは、やってみよう！

ネットショップは、リスクが少ないため、わりと気軽に始められた。一方で、自分は運がいいとも思っている。たまたまの旅行で自分がこれだという商品に出会えたことや、2人目の妊娠のときに実母が仕事をやめ、手伝いを頼みやすかったこと、夫婦ともショッピングが好きで、趣味と仕事がとても近いことなど。何か始めたいと考えている人には……「まずは行動してみて、課題ができたならその都度考え乗り越えていけばいいのでは？」

母からのメッセージ

育児・家事・仕事と多忙ですが、身体には気をつけてください！

にいっ
新津きよみさん 新白岡在住 作家 夫・長女（高校生）

● チラシの余白などを見ると何かを書かずにいられない子ども時代

会社員時代 ヨーロッパ外資系旅行会社

大学 文学部仏文科

小学4年
初めて書いた小説をほめられる

自分探し時代 派遣会社
数々の通信教育、講座通い

30歳 作家デビュー



● 何をしても糧（実）になる

4時半に起床し、コーヒーを飲みながら新聞3紙に目を通すことから一日が始まる。5時半から長女のお弁当作り。机の前でじっとアイデアが湧くのを待っているより、掃除機をかけたり、お皿を洗ったり、自転車でスーパーに行ったり、身体を動かしている時の方が題材がふとひらめく。いろいろな人に出会ったり、美術館巡り・映画鑑賞など文化に触れたり、さらに、嫌なことでもすべて仕事に役立つ。何でも小説の材料になる。「日常の中の非日常」をテーマにした小説を書いていると、日常のこまごましたことがすべて生きてくる。興味を持って常にアンテナを張って生活をしていると、材料など目指すものが向こうからやってくる。

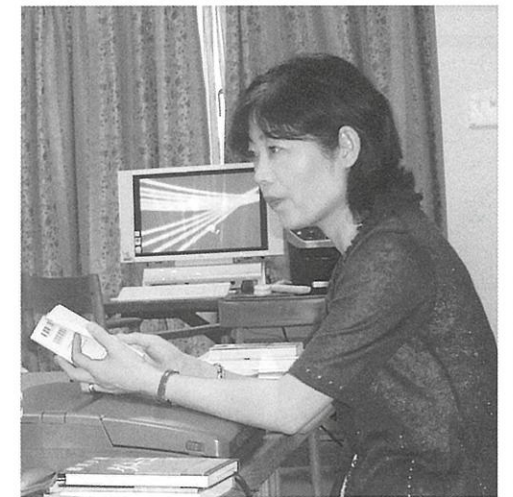
● 我が家では、餃子は買ってくるもの

家事（料理）などに完璧を求めない。お弁当も何か一つ、手作りのものがあれば、あとは冷凍食品を使う。餃子もほとんど作ったことはない。

娘にとってこれだけはお母さんの味、というのが一品でもあればいいと思う。それが自信につながる。

年に一度でいいから、鍋パーティーなど、ホームパーティーを開くのも子どもにとって印象に残りやすい。

子どもが一歳で保育園に行くまでは、お昼寝をしている間に原稿を書く毎日。また、保育園の送り迎え、買物、家事育児の分担など、夫と協力しながらずっと書き続けてきた。“結婚するなら在宅勤務の人”と決めていた。締め切り間近になると、同業の夫が料理当番。今では娘の助けも大きい。



● 好きなことが仕事に

作家は“究極の在宅ワーク”、定年もない。書くことは趣味の延長。趣味と仕事の区別がない。もともと好きなことが仕事となっているような感じ。今後5年後、10年後、その時々年齢に応じた題材が見つかるはず。その時に持っている問題意識や興味があることを書いていきたい。

在宅ワークは満員電車に乗らなくてもいい、時間の管理が自分でできるなどメリットも多い。反面、自己管理が難しい。

自分が管理職になり、行動に関して意思を強く持ったり集中力を持続させないと、後で仕事にしわ寄せがくる。

自分探しの期間は長かったが、今は充実しているかな。今のペースで一生書き続けたい。

パートナーからのメッセージ

定年のない仕事ですから、お互い身体を大切に頑張りましょう！

ワークライフバランスには、「仕事と生活との良好な関係づくり」に加え、「人生の段階に応じて希望する“バランス”を決めることができる」という考え方があります。まさに、今回のお二人は、自分らしい“仕事”を再選択し、その結果、忙しくても充実した日々を送っています。

こうした考え方は、年齢や性別とは関係がないように思いますよ。本当の自分らしさのために、自分に対して、もう一度“チャンス”をプレゼントしてもいいのではないのでしょうか。

白岡のおともだち、大集合

—母親クラブ・ミニ運動会におじゃましました—



JUN.14.2007 西児童館・遊戯室



きらっと輝いて!

しらおか子育てネット「にこ梨ん♪」

代表 菅 尚美

しらおか子育てネット「にこ梨ん♪」は、白岡町の子育て中の方を対象に、毎日の子育てが楽しくなるように、地域全体で子育てを支援していける環境作りを目指しています。例えば、町の子育てに関する情報を発信する広報誌の発行、ママがリフレッシュして子どもと向き合えるようなママのための企画、子育て中(妊娠中の方も)の方の情報交換の場の提供、町民、行政、地域を結ぶネットワークとして、各活動団体との連携などです。これらを進めていくためには、私たち実行委員だけでは難しい事だと思えます。そこで、地域のいろいろな世代の方に応援していただけるととても嬉しいです。しらおか子育てネット「にこ梨ん♪」では、保育ボランティア・実行委員・協力メンバーの募集をしています。みなさんの参加をお待ちしています。

問い合わせ先 東児童館 TEL92-7389

ワーク・ライフ・バランスとは

ワーク・ライフ・バランスとは:仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自らが希望するバランスで展開できる状態

ワーク・ライフ・バランスが実現した姿



平成19年7月 男女共同参画会議・仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会 報告

編集委員: 落合 利次 鈴木 園江 石井久美子
鈴木多美子 鈴木 水弘
表紙デザイン: 鈴木 水弘

発行
編集

白岡町町民活動推進課 TEL 0480 (92) 1111 内線354
FAX 0480 (92) 9096
E-mail tyoukatsu@town.shiraoka.lg.jp

しらおか男女共生広報紙編集委員
ご意見、ご感想お待ちしております。



地球環境保護のため再生紙を使用しています。